

＜県南地方振興局長賞＞

仮想ゼロ・タックス・ジャパン

矢吹町立矢吹中学校 3年 三島木 春馬

西暦二〇三十五年、税制度を廃止する新税制革命法施行から半年が経った。

朝のニュースでは、「本日より全国の高速道路は全線有料化されます。通行料は一キロメートルあたり百円。従来のETCカードは使えません。」テレビから流れるアナウンサーの声に、両親はため息をつく。

税金廃止に伴い、国土交通省は解体。道路管理は民間会社が請け負うようになったが、その維持費はすべて利用者負担になった。

高速だけでなく、市内の大通りにもゲートが設置され、主要道路を走るたびに課金される。公共交通機関も補助金が消え、バスの初乗りが千円、地下鉄は一駅ごとに五百円だ。通勤費が三倍に膨れ、両親は徒步と自転車での通勤に切り替えた。

また、公立校はすべて廃止され、地域の学校は「教育サービス会社」に変わった。授業料は月五万円。支払えない友達はオンラインの無料動画学習か、地元の寺院や、NPOが運営する教室に通う。クラスは半分以上が転校や退学を余儀なくされ、仲の良かった友達の多くが引っ越した。

以前は国民健康保険があったが、税が廃止されて保険制度も消滅。代わりに民間保険会社が高額な医療プランを提供しているが、保険料は月十万円以上。加入できない人は診療費を全額負担しなければならない。先月、母は風邪をこじらせて肺炎になったが、治療費は入院三日目で四十五万円。貯金がごっそり減り、父は次の支払いに頭を抱えている。

警察は民営化され、「安全保障サービス」として提供されている。月額契約をしている家には、通報から五分以内にガードマンが駆けつけるが、契約していない家には原則対応しない。ある夜、近所で空き巣があったが、被害者宅はサービスに契約しておらず、犯人は捕まらなかった。治安は徐々に悪化し、富裕層は高い塀と私設警備を雇い、中低所得層は自衛のために防犯グッズや武器を買うようになった。

さらに、南海トラフ地震が発生。富裕層向けには有料のヘリ避難サービスがあり、契約者は数時間で安全な場所へ移動できたが、契約していない被災者は避難所不足に苦しみ、物資も届かない。SNSでは、「税金がない自由」と「命を守る公共の力の消滅」が激しく議論された。

こうしたなか、二千三十五年の年末、我が家は家族で話し合い、地方の自給自足コミュニティーに移住することを決めた。そこでは小さな互助組織があり、みんなで道路を直し、互いに助け合って暮らしている。

税は不満の対象になりやすいものの、社会を成り立たせるための「会費」として不可欠な仕組みなのだ。

「結局、税金ってこういう共同体のための会費だったんだな・・・。」

僕は星空を見上げながら、かつての日々を思い出し涙が出た。